









雪登齋

不震

馬

舟舞のよみ

柳

舟舞のよみ

あゝ里橋や木のせせほ

舟舞のよみ

長春樓下

竹裕

舟舞のよみ

大文

舟舞のよみ

五柳

舟舞のよみ

八斗



白河此浪を吹あり春の風

一享

新緑紙来くつよ柳は

宴子

雪もやあつてはるる雪るる

一観

心を小多紙集めく春野は

自樂

生余さや忠を仰と鶴の鳴

風安

隼月帯く屋あり三保の松

如柳

馬堀を言けの押も野をさ

秋里

梅うまや旭のまやる所の艶

枕之



空の空も七流も 茂く非

扇已

月一松南のい艶あり春の風

泥亀

陽春や波の流成追くり

萬籟

空も半空の中ふ

長春樓

翠霞花

春のり春の望も水

そらも白也 海神の

水のふらふらく



乙丑睦月

文化二年

桃野書





